

“公助の限界” から見た地域の力

防災士として活動する中で、榎さんは「個人でできることには限界がある」と感じるようになったそうです。特に転機となったのは、市防災危機管理室から依頼された避難所運営訓練への参加でした。訓練を通じて、避難所は「床と天井しかない場所」であり、行政だけでは対応しきれない場面があることを実感。“公助の限界”と、地域で支え合う“共助の大切さ”を強く感じたといいます。

そんな中、テレビで見た熊本地震時の「明るい避難所」の事例に衝撃を受けました。そこでは、看護師や自衛官、調理師など、地域住民がそれぞれの知識や技術を活かし、支え合いながら避難所を運営していました。

このことを知り「自分たちの地域でもできるのではないか」と、地域の自主防災組織に加入し、活動を本格化するために有志を募ると、看護師や消防団員、お寺の関係者、キャンパー、農家、ガソリンスタンドの経営者など、多様なスキルを持つ住民が集まりました。それぞれの知識や経験を持ち寄り、発電機を活用した井戸水の確保など、“地域の力”で災害時の課題解決に取り組んでいます。

榎さんは、「地域のために始めた活動だったが、今では自分が地域のみなさんに支えられていると感じています」と話します。

今日から始められる実践的な備え

榎さんは、「**防災は特別なことではない**」と話します。キャンプなどのアウトドア活動も災害時の備えにつながるという、用品も「災害時に使えるか」を基準に、自立式テントやカセットコンロなど実用性を重視して選んでいるそうです。

また、100円ショップの商品を組み合わせた簡易ランタンや簡易トイレなど、身近な物を使った防災グッズも考案。特に簡易トイレは、1セット約40円で作ることができ、普段でも活用可能です。

「まずは何か一つ備えることから始めてほしい」と呼びかけています。

地域で備える安心を目指して

現在は、自主防災組織の活動をさらに発展させ、「あそこに行けば何とかなる」と地域の人々が安心できる“自主避難所”を公民館につくることをめざしています。

多くの人は、「災害はまだ来ない」「行政が何とかしてくれる」と考えがちです。しかし、榎さんへの取材を通して見えてきたのは、「日ごろの備え」と「地域のつながり」の大切さでした。災害から命を守るためには、「自助」「共助」の視点が重要です。

まずは、水や食料の備蓄、避難場所の確認、非常用持ち出し袋の準備など、“今できること”から始めてみませんか。

みやこの苑 ID0033874

災害時防災井戸設置

災害時ライフライン確保の一環（生活用水）として、市内に新たに防災井戸が設置されました。



榎さんの 防災グッズ一部紹介



1. ポータブル電源で使えるランタン / 2. 簡易トイレ / 3. 水と尿素を混ぜて冷却する瞬間保冷剤 / 4. 防災リュック

防災イベント ID0039978

災害は忘れたころにやってくる 防災教室 in 行橋

防災…大切なのは分かっている…何処まで準備したらいいの？準備するとキリがない。疲れる。備蓄の保管場所がない。そんな悩みを参加者みんなで一緒に考えてみませんか？ 6/6 (土) 9:00 より受付開始

■日時 6/21 (日) 10:00 ~ 12:00

■場所 行橋市男女共同参画センター
〜びる 研修室

■対象 どなたでも ■定員 20人

■料金 無料

■申込 下記へ電話もしくはLINE

■問合せ えんしゃんす

☎ 090-9588-3344

✉ yama.kei.yama@outlook.jp



今日の防災は、 明日の笑顔に。

今回の特集では、熊本地震での経験をきっかけに防災士となり、地域で自主防災組織の活動に取り組む榎さんにお話を伺いました。「自分たちの地域は自分たちで守る」という思いのもと、地域防災への取り組みや、日頃から備えることの大切さについて教えてくださいました。

問 防災危機管理室 (内線1452)

災害への備えは“今できること”から

大雨や台風、いつ起こるか分からない地震——。こうした災害によって、停電や断水などのライフラインが途絶える恐れがあります。近年、私たちの暮らしのすぐそばには、さまざまな災害リスクがあります。

市では、日ごろからの備えとして、水や食料の備蓄“ローリングストック”、避難場所や避難経路の確認、非常用持ち出し袋の準備、家族との安否確認方法の共有、家具の固定、防災情報の収集などを呼びかけています。

しかし、「何から始めればいいのか分からない」と感じている人も少なくありません。今回お話を伺った防災士の榎さんも、かつてはその一人でした。

熊本地震が変えた防災への意識

榎さんが防災士を志した原点には、10年前に発生した熊本地震での強烈な体験があります。リハビリの仕事を通じて熊本に縁があり、被災した友人から助けを求められたことがきっかけでした。

当初は善意から支援物資を送ろうとしましたが、物流網が寸断されていたため、「送られるとかえって迷惑になる」と断られました。その後、被災した友人から「ブルーシート、ロープ、ポリタンクが欲しい」と具体的な要望を受け、現地へ向かいました。

初めて訪れた被災地では、余震が続き、土地勘のない環境も重なって、「そこにいて怖い」と感じるほどの不安を経験。この経験から、「自分や家族を守るためには、今何ができるのか」と考えるようになったそうです。

そこで、まずはペットボトルの水を備蓄することから始め、その後、初孫が生まれたことを機に、「この子が災害時に困るようなことがあってはいけない」という思いから、初めて避難リュックを準備しました。備えを進める中で、防災の知識の必要性を感じ、防災士資格を取得し、今では自作の防災グッズを作るまでになりました。

防災士とは



災害への備えや避難、地域の防災活動について学び、地域や職場で防災力を高める役割を担う民間資格を持つ人のことです。平常時は防災訓練や備蓄の呼びかけ、災害時には避難所運営や地域住民の支援などを行います。

防災士養成研修

受講者募集 ID0045075

地域の防災リーダーとして活躍する「防災士」を養成する研修の受講者を募集します。詳しくは、市HPをご覧ください。防災危機管理室へお問い合わせください。

申込期限 7/13(月)

LINEで
友だちになろう!

市の防災情報を受信するのはLINEが便利。友だち登録をすると、受信する情報を「防災」「イベント」「健康」など、興味がある分野で自由に選ぶことができます。

KBC1ch+@ボタン

- 1 テレビのチャンネルをKBC (1ch) に合わせます。
- 2 リモコンの「d ボタン」を押します。
- 3 「d ボタン」広報紙を選び、「決定ボタン」を押します。

※ お使いのリモコンによりボタンの位置は異なります。